

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県病虫害防除所長

平成26年度病虫害発生予報第1号（4月）について

このことについて、病虫害発生予報第1号を発表したので送付します。

予報第1号

**いもち病の対策は、種子消毒の徹底からはじめましょう！**

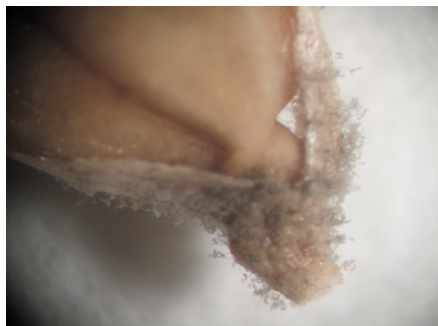
本年2月に水稻種子（9品種、32産地、85地点）のいもち病菌保菌率調査が、農総試病虫害部で実施された結果、平均保菌率は0.63%でした（前年：0.75%）。

いもち病の主な伝染源は保菌種子です。防除対策の基本に基づき、塩水選や種子消毒等の育苗管理を適切に実施し、本田へのいもち病の持込防止に努めましょう。

なお、QoI剤耐性のいもち病菌が確認されているため、適切な防除薬剤を選択しましょう。

具体的な防除対策は、県ホームページに掲載している『病虫害・雑草防除の手引き』を参考にしてください。

URL：<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d05/tebiki.html>



いもち病菌の保菌種子



育苗期のいもち病（苗いもち）

<予想される向こう1か月の天候（平成26年3月8日～平成26年4月7日）>

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並でしょう。降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年より低く、2週目は平年より高いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	30	40	30
降 水 量	30	30	40
日照時間	40	30	30

（福岡管区气象台 平成26年3月6日発表抜粋）

4月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
イチゴ	うどんこ病	少	少	並
	ハダニ類	並	やや少	やや少
ナス	すすかび病	少	少	少
トマト	灰色かび病	やや少	やや少	やや少
キュウリ	べと病	並	やや多	並
	うどんこ病	少	少	少
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ	少	少	少
	コナジラミ類			
	ナス	少	少	並
	トマト	多	やや多	やや多
茶	カンザワハダニ	少	少	少

作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。

注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

発病株率 0%（過去9か年平均 0.6%、前年 0.1%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年より多いとされている（+）。

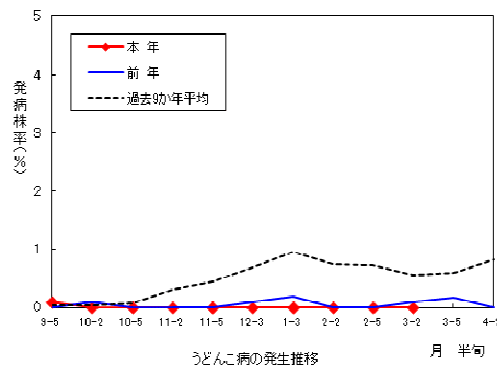
(3) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、下葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 7の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



## 2 ハダニ類

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

### (2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生株率 12.8% (過去9か年平均 13.9%、前年 19.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は

平年より多いとされている(－)。

### (3) 防除上注意すべき事項

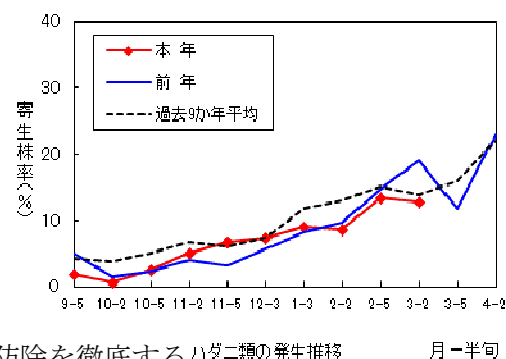
ア 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。ハダニ類の発生推移

イ 防除は摘葉後に行うと効果的である。

また、摘葉した葉や除去した雑草は、ハウス内に放置せず、ビニル袋に入れ密封し処分する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 天敵を利用しているほ場では、薬剤の選定に留意する。



## 【野菜：冬春ナス】

### 1 すずかび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

発病葉率 12.0% (平年 19.4%、前年 11.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は

平年より多いとされている(+)。

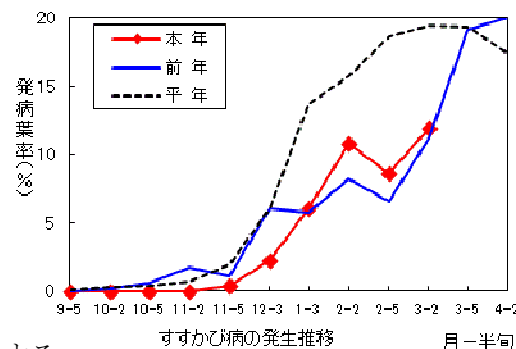
#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

ウ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な栽培管理を行う。

エ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜：冬春トマト】

### 1 灰色かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(－)。

発病果率 0.2% (平年 0.4%、前年 0.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は

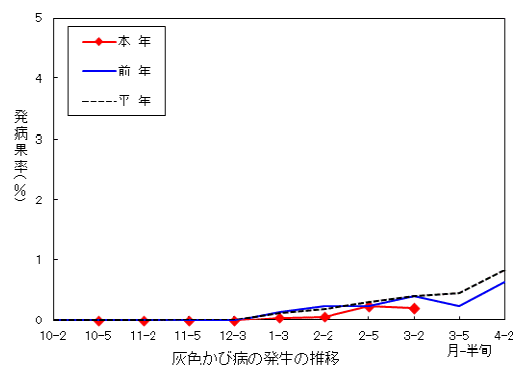
平年より多いとされている(+)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 発病果は除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

ウ 開花後の萎れた花卉は、伝染源となるので取り除く。



## 【野菜：冬春キュウリ】

### 1 ベと病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病葉率 8.8%（平年 7.8%、前年 6.8%）

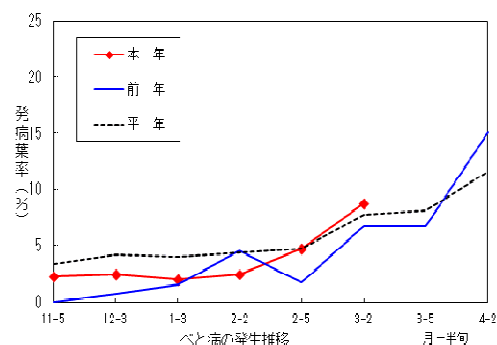
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年より多いとされている（+）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な栽培管理を行う。

ウ スワルスキーカブリダニを導入している場合は、薬剤の選定に注意する。



### 2 うどんこ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

発病葉率 0.6%（平年 2.1%、前年 9.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年より多いとされている（+）。

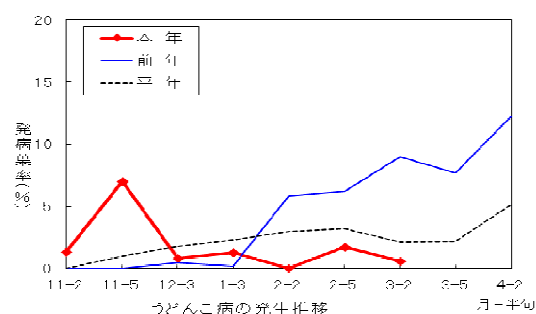
#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病葉はできる限り除去するとともに、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ スワルスキーカブリダニを導入している場合は、薬剤の選定に注意する。



## 【野菜共通】

### 1 ミナミキイロアザミウマ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

寄生葉率 2.6%（平年 7.0%、前年 18.8%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年より多いとされている（-）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

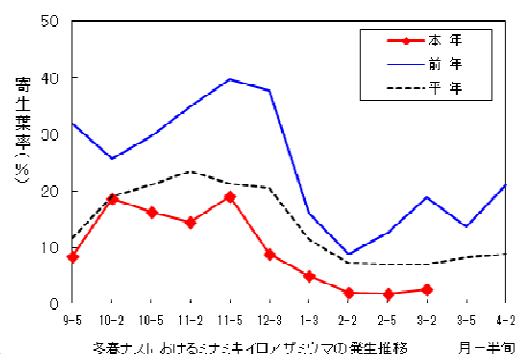
ア 葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。

また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。

イ ほ場内の除草を徹底し、本種の増殖源を絶つ。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 天敵を利用しているほ場では、薬剤の選定に留意する。



## 2 コナジラミ類

### (1) 予報の内容

発生量：ナス 平年より少、前年並  
 トマト 平年・前年よりやや多

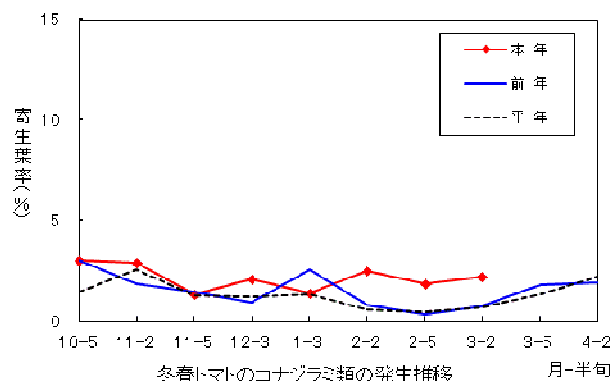
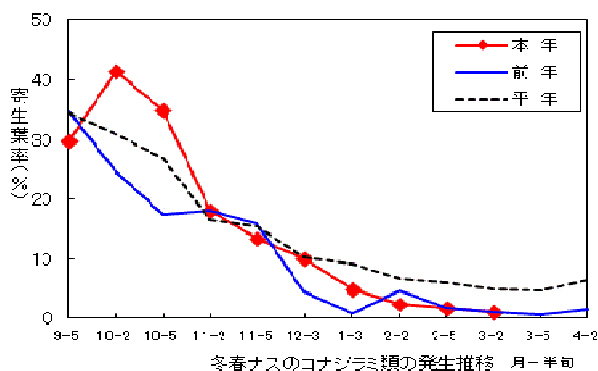
### (2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量はナスでは平年より少なく（－）、トマトでは平年より多かった（＋）。

ナス寄生葉率 1.1%（平年 5.0%、前年 1.1%）

トマト寄生葉率 2.2%（平年 0.7%、前年 0.7%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年より多いとされている（－）。



### (3) 防除上注意すべき事項

- ア ほ場内の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。
- イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。
- ウ 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように散布する。
- エ 成虫のハウス外への飛散防止のため、0.4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- カ トマト黄化葉巻病（TYLCV）の罹病株は、早期に抜き取りほ場外へ持ち出す。

## 【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	並	並	・罹病果は見つけ次第除去する。 ・下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。
冬春ナス 灰色かび病	少	少	並	・罹病葉や罹病果実は早めに除去し、ほ場外へ処分する。
冬春トマト 葉かび病	少	少	並	・肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。 ・抵抗性品種を栽培しているほ場でも、葉かび病の発生に注意する。
冬春キュウリ 灰色かび病	並	並	並	・予防散布に努める。 ・罹病葉や罹病果実は早めに除去し、ほ場外へ処分する。 ・初期防除を徹底する。
褐斑病	少	少	並	

## 【茶】

### 1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 3月2半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

寄生葉率 0.3%（平年 1.5%、前年 1.8%）

50葉当たり虫数 0.2頭（平年 1.9頭、前年 2.5頭）

発生ほ場率 11.1%（平年 33.3%、前年 33.3%）

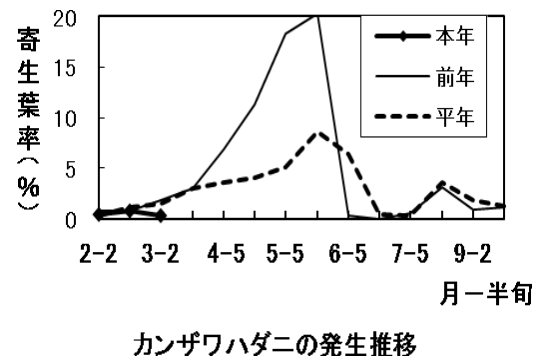
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年より多いとされている（－）。

(3) 防除上の注意

ア ほ場をよく観察し、寄生葉率が2%以上の茶園では防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

ウ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 7の内容を確認の上、適切に実施する。



病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)

# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・有用昆虫・河川等に対する配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬ラベル確認の徹底

(適用作物・使用量や濃度・使用時期・総使用回数・有用生物〈みつばち等への影響〉)

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤 40 は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 散布前における情報提供の実施

(散布区域に近接するほ場、住宅地、養蜂等の関係者、他)

## 3 散布時には近隣作物や住宅地等周辺への飛散防止を徹底

- ・ 風、散布方向、散布時間、散布圧に留意。
- ・ 飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用。
- ・ 散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意。

## 4 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を3回洗浄

## 5 防除履歴の正確な記帳

- ・ 薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳。

## 6 空容器の処分

- ・ 空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。  
また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。